

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第1号

果樹

発行日 平成26年3月20日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 花芽率は平年より高いですが、弱小花芽率が高い地域も有ります！
- ◆ 発芽は平年並からやや遅いと予測されます！ 春作業を計画的に進めましょう！

りんご

1 花芽の状況

平成26年産りんごの花芽率は、「つがる」、「ジョナゴールド」、「ふじ」とも平年より高めとなっています。なお、「ジョナゴールド」では一部地域で平年以下となっており、地域的なバラツキもみられます。近年、生育期の高温が顕著であり、本年も11月まで気温が高い状態が続いていましたが、花芽形成期である7月の気温が低く推移したことにより、花芽率は平年より高くなったと推察されます。

一方、弱小花芽率は平年より低い値でしたが、県南部の一部地域では平年より高く、地域差が認められます。本年は花芽形成期以降の気温が高めで推移したことや8月の集中豪雨と9月、10月の台風等で降水量が多くなったことにより、窒素分が樹体に吸収され果実のデンプンや地色の抜けが悪くなりました。これにより収穫作業が遅れ、花芽の充実が劣り、地域的に弱小花芽率が高くなったと考えられます。

地域的なばらつきはありますが、今年の花芽率は平年より高いため、着果量は多くなることが予想されます。早めの着果管理ができるよう、計画的に作業を進めてください。

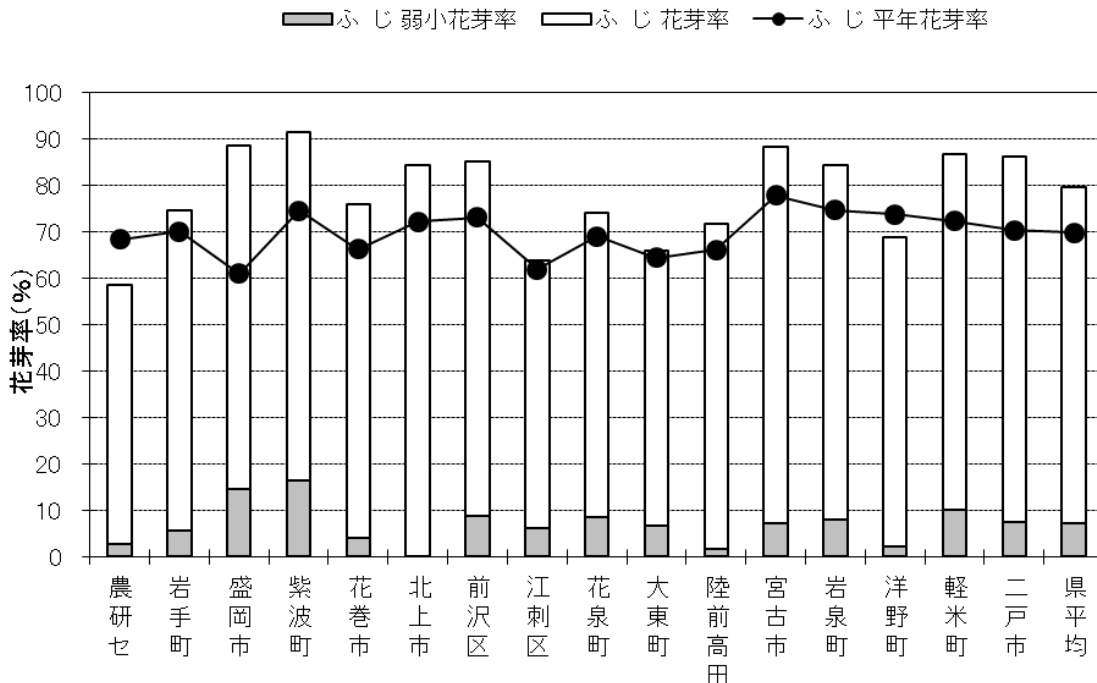


図1 平成25年度(平成26年産)ふじの花芽率

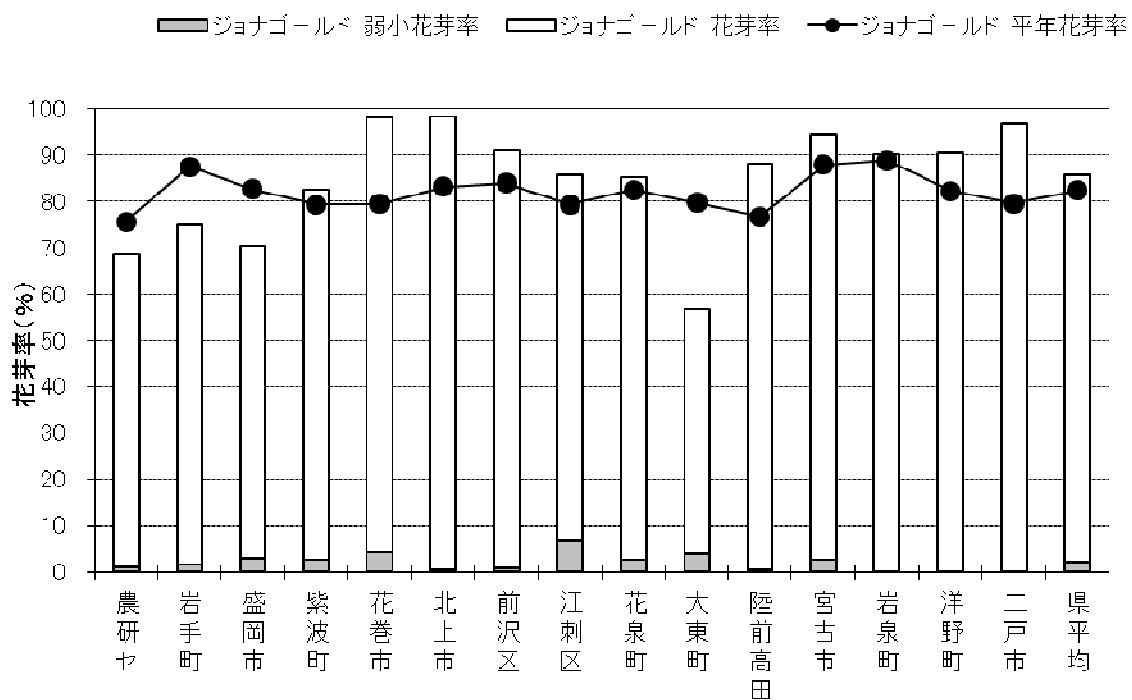


図2 平成25年度(平成26年産)ジョナの花芽率

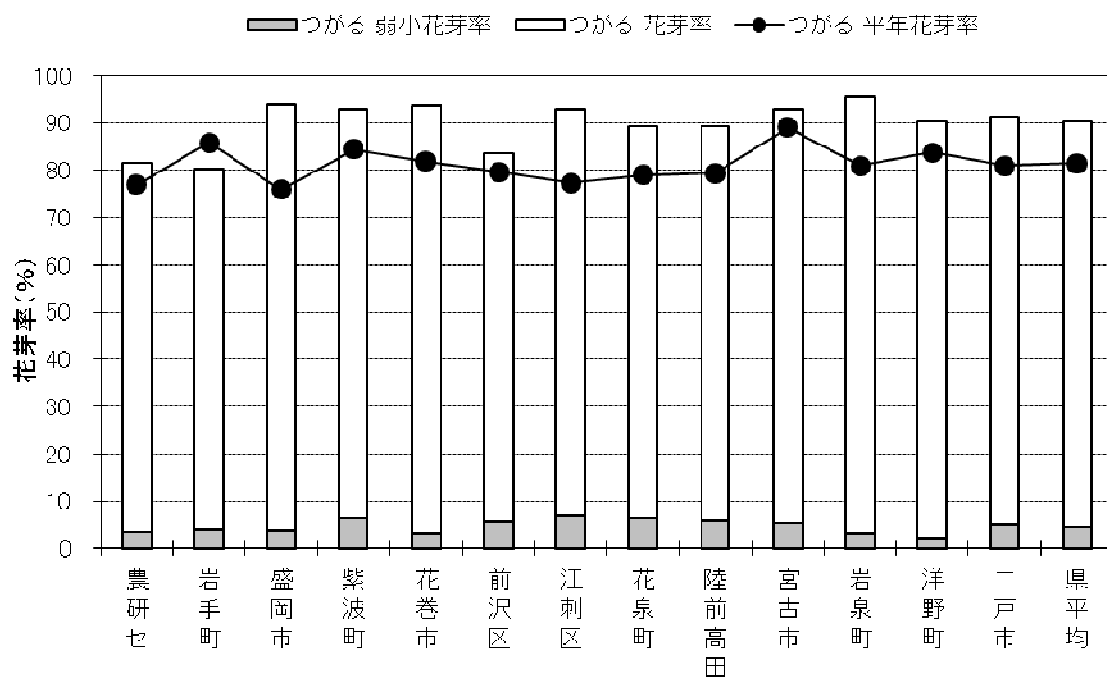


図3 平成25年度(平成26年産)つがるの花芽率

2 発芽予測

3月17日時点のメッシュ気象情報システムを用いたりんごの発芽予測では、地域により若干の差はあるものの、県平均では概ね平年並みと予測されています（表）。

本予測結果は予測日（3月17日）以降の気温が平年並みで推移した場合の予測日であり、3月13日発表の仙台管区気象台発表の1ヶ月予報によると、今後の気温は高く推移するとされています。

今後も気象予報には十分に注意し、桜の開花前線やツバメ飛来等周辺の生物季節の推移を参考に、剪定や防除の準備等を進めましょう。

表 「ふじ」の発芽予測結果(3月17日時点)

	発芽予測日	平年発芽日	予測日の 平年差
岩手町一方井	4月18日	4月14日	4
盛岡市三ツ割	4月13日	4月10日	3
紫波町長岡	4月12日	4月9日	3
花巻市中根子	4月11日	4月8日	3
北上市更木	4月9日	4月7日	2
奥州市前沢区	4月8日	4月4日	4
奥州市江刺区	4月12日	4月11日	1
一関市花泉町	4月9日	4月7日	2
一関市大東町	4月11日	4月10日	1
陸前高田市米崎	4月4日	4月6日	-2
宮古市崎山	4月11日	4月8日	3
岩泉町乙茂	4月7日	4月9日	-2
洋野町大野	4月17日	4月15日	2
軽米町高家	4月17日	4月12日	5
二戸市金田一	4月12日	4月10日	2
平均	4月11日	4月9日	2

※予測日は3月17日以降の気温が平年並みで推移した場合

3 作業の留意点

- (1) 防除作業や各種管理作業は、生育ステージに合わせて進める必要がありますので、薬剤の準備、剪定枝の片付けなどの園地整備を早めにし、作業の遅れが生じないようにしましょう。
- (2) りんごの花器は、開花期に近づくにつれ、低温耐性が下がってきます。さらに、近年の気象は変化が大きく、極端な低温による凍霜害発生の危険性が否定できません。燃焼資材の準備、防霜ファンの点検、防霜対策用スプリンクラーの設置など対策の準備を進めましょう。また、霜害の事後対策としては、人工授粉による結実確保が重要なので、花粉の準備も合わせて進めましょう。
- (3) 病害虫の発生状況については、病害虫防除所が発行する防除情報を参考に、適期防除に努めましょう。

次号は4月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。